

【優勝までの軌跡】

2回戦 試合会場 境川遊水地少年球場

| チーム名 | 地区 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 計 |
|---------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 有馬フレンズ | 宮前 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | 3 |
| 平戸イーグルス | 戸塚 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | | | 2 |

初回、3番のスリーベース、相手のバースボールで先制。
 2回、同点に追い付かれるも、3回、2番のヒット、3番のランニングホームランで加点。
 最終回、連打で1点差に迫られるも後続を断ち、初戦を飾った。

3回戦 試合会場 相模三川公園 B2

| チーム名 | 地区 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 計 |
|------------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 湘南ブルーサンダース | 藤沢 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | 0 |
| 有馬フレンズ | 宮前 | 2 | 5 | 0 | 1 | × | | | | | 8x |

1回裏、1番レフト前ヒット、デッドボール・フォアボールで満塁。犠牲フライとセンター前ヒットで、2点先制。
 2回裏、2つのフォアボール・2つの相手エラーで1点追加し満塁。3番の3塁線ヒットで走者一掃、3点追加。
 その後、フォアボール・ファーストゴロで1点追加。
 4回裏、3番のレフトオーバー2塁打。その後、デッドボール・相手エラーで1点追加。
 5回裏、0点で抑えコールド勝ち。

準々決勝 試合会場 相模三川公園 B2

| チーム名 | 地区 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 計 |
|--------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 有馬フレンズ | 宮前 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | | | 3 |
| 港少年野球部 | 平塚 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | | | 1 |

2回表、ショートエラー、送りバント後、7番のセンターオーバー2塁打で1点先制。
 4回表、3番・4番の連続ヒット、5番ファーストゴロの間に1点追加。7番の左中間ヒットで、さらに1点追加。
 6回裏、2番のレフト前ヒット、送りバント後、4番のレフトオーバーで1点とられる。
 最終回（7回）表、9番・1番の連続ヒット後、3番敬遠で2アウト満塁。4番内野ゴロで追加点ならず。
 最終回（7回）裏、2アウト後、9番・1番に連続ヒットされるも2番ショートゴロで試合終了。準決勝進出。

準決勝 試合会場 サークルフォー保土ヶ谷球場

| チーム名 | 地区 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 計 |
|---------|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 相模ブルーバズ | 相模原 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | | | 0 |
| 有馬フレンズ | 宮前 | 2 | 0 | 4 | 2 | × | | | | | 8 |

初回、ワンアウト2、3塁のチャンスを作り、4番の左中間へのタイムリーで先制。
 3回表、ツーアウト満塁のピンチを凌いだその裏、1番フォアボール、2番送りバントとチャンスを作り、3番のセンター前ヒットで加点。4番フォアボール後、5～7番の連打で一挙4得点、試合を優位に進める。
 4回、2番のヒット、3番フォアボール後、ダブルスチールが決まりチャンスを広げたところで4番のレフト前、ダメ押し2点が入る。
 先発ピッチャーも好投し、決勝進出を決めた。

決勝 試合会場 サークルフォー保土ヶ谷球場

| チーム名 | 地区 | 一 | 二 | 三 | 四 | 五 | 六 | 七 | 八 | 九 | 計 |
|-----------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 有馬フレンズ | 宮前 | 5 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 2 | | | 10 |
| 辻堂少年野球クラブ | 藤沢 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | 1 |

初回、1番の内野安打からワンアウト3塁とし、3番がライト前ヒット。これをライトが後逸し、2点先制。4番フォアボールの後、6番の左中間、7～8番もヒットで続き、一挙5得点の猛攻で主導権を握る。
 その後3、4回も打線が効果的に繋がり追加点を奪う。
 7回、チャンスで代打の内野安打から追加点が入り、ベンチのムードは最高潮となる。
 その裏もキッチリ締め、完勝。
 県大会春夏連覇を決めた。